

令和4年度 函館あおい認定こども園 自己評価・学校関係者評価表（10段階評価）

評価分類	評定	内 容
保育の計画性	8.6	園の教育理念や教育・保育方針を理解している。
	8.7	園の目指す幼児の姿を具体的にイメージできる。
	7.5	幼児の生活が豊かになるような行事を、幼児の実態に合わせて精選している。
	7.6	指導・保育計画に基づいて、幼児が主体的にかかわりたくなるような環境構成をしている。
	8.8	保育教師の願いや意図をもって環境構成をしている。
	7.7	自分の保育と計画の評価・反省は、行うようにしている。
	7.5	幼児が自ら活動を生み出していけるような素材との出会いを考えている。
保育のあり方・幼児への対応	7.9	園内に危険な個所がないかどうか、危険な遊び方はないかななどを常に観察している。
	7.7	幼児同士のかかわりの中で、その姿の内にある心の動きについても、推察するようにしている。
	7.9	個々の幼児の発達の様子や課題について見通しをもって理解できる。
	8.8	一人一人と集団の関係を、常に考えながらかかわっている。
	8.7	クラスに関係なく、その場にいた教師が適切な言葉かけや対応をしている。
	8.2	クラス的环境構成などについても、お互いに意見を交換している。
	8.3	幼児のことについて、常に保育教諭同士で話し合い、クラス・学年をこえて情報を共有している。
資質・能力・良識・適性	8.4	締切りのある仕事や提出物は締切日をきちんと守っている。
	8.3	クラス内はもちろん、園内外の清掃や整理整頓を実行している。
	9.4	教職員全員でひとつのチームであることを意識している。
	7.1	会議の時は、自分の意見や質問を前もって考えている。
	7.4	保護者に対し、幼児のことや自分の保育のことをわかりやすく話すことができ、保護者との信頼関係を作ることに努めている。
	8.3	自らの健康にも配慮し、つめが伸びていないかどうか等、保育をする上での安全性にも気をつけている。

評価分類	評定	内 容
保護者への対応	8.4	個々の子どもの様子は直接話を行い、電話・連絡帳などを使って伝え合っている。
	8.2	保護者の要望等を受け止めて実行する場合は、そのことの保育要素・教育的な意義付けを、はっきりとさせてからにしている。
	8.1	自分の考えをきちんと話し、保護者の話に関心をもちよく聞く。
研修と研究	7.2	研究保育を参観する時は、自分なりの課題と視点をもって観ている。
	7.4	自分なりの幼児観・保育観の確立のための研修・研究を行っている。
	7.3	園内の環境を、いくつかのまとまりや、関連性を持たせて保育の計画・実践に生かすことができる。

## ～学級経営反省点～

### 【幼稚部】

- 進級時、自分の気持ちを優先した言動が、クラス全体として多く感じられた。言葉で伝えず態度で示す子も多く、友達の気持ちを想像したり、考えや思いを言葉で伝え合う時間を大切にしたい。少しずつ相手の事を知り・自分の気持ちも伝える事ができるようになった。（7年目：保育教諭）
- 集団としての行動を意識しすぎるあまり、個々のペースや良さを見逃してしまったことがなかったかと、反省する事が何度かあった。一人ひとりの特性を踏まえた上での、集団活動の作り方は、日々考えさせられた。（7年目：保育教諭）
- 好きな遊びの時間、季節や行事に興味をもてるような製作遊び等を取り入れる事はできたが、子どもたちの心の動きややりたいことに対する環境作りにもう少し力を入れる事ができると、更に充実したのではないかと思った。（7年目：保育教諭）
- 個別の手助けが必要な子・周囲の環境につられやすい子が多かった。それぞれの姿をしっかりと捉え、一人ひとりに合わせた援助を行いつつ、クラス作りを行っていたかと反省する。個別や状況に合わせた援助の方法も学んでいき、クラス作りに結び付けていきたい。（5年目：保育教諭）
- 保護者様へのお伝えが、自分の説明が上手くできていないことを何度か感じた。重ねて説明することが何度かあり、ご迷惑をかけたと思う。自分の中でしっかりと言葉や内容を考えた上でお伝えし、信頼関係を築きたい。（3年目：保育教諭）
- 行事や活動をすすめる中で、焦ってしまうことが多く、活動をすすめるべき場面があった。一人ひとりにしっかりと向き合う事を、大切にすすめていきたいと思う。（2年目：保育教諭）
- 一人ひとりの発達段階によって出来る事や、難しいことがそれぞれ違うが、どうしても援助が必要な子に焦点をあてて保育をすすめてしまうことが多々あった。もう少しクラス全体に目を向け、広い視野を持ってすすめていかなければならなかったと反省した。一人ひとりをしっかりと見つめ、クラス全体として広い視野を持ち、サポートに入っている先生との連携を大切にしながら今後はすすめていきたいと考えている。（2年目：保育教諭）
- 遊びの環境作りの工夫が足りていなかったことが反省点である。季節に合わせた環境・その時子どもたちの興味をもっている事柄をしっかりと受け止め、一緒に準備等が出来る状況へ促すことができるとよかったと感じる。好きな遊びの中からのやりとりの中で、たくさんの社会性が芽生える事を知ったので、今後は上手に環境準備を行っていきたい。（2年目：保育教諭）

## 【保育部】

- 0歳児として、日々の健康などを職員間にて伝え合い、子どもの成長を保護者の方とも一緒に喜び合いながらすすめる事ができたと思う。保育室の空間を共有している1歳児との連携も行い、子どもたちの欲求を満ち楽しさを味わえるような保育を心がけたが、連携の気づきが少し甘い部分があり意識して取り組まなければならないと感じた。（3年目：保育教諭）
- 情緒の安定については、家庭環境等が変化する子が多く、子どもたちの心境の変化があると感じる事が多くあった。不安定になってしまう子に対しては、保育教諭間で連携を取りながらかわることが出来たと感じるが、保護者様との連携をもう少し深くとることが出来たらよかったと反省している。（2年目：保育教諭）
- 保護者様とは連絡帳や降園時に、様々な事を話し合ったり伝える事が出来たと感じている。食育のすすめ方が上手く伝える事ができず（離乳食から幼児食への移行）もう少し細やかに伝えることを心がけたいと思った。（16年目：保育教諭）
- 月齢の幅が広いクラスだったため、月齢で分けて活動をすすめたり、環境を設定する事で、安心して過ごせる様子が見られたことがよかった。午後からの遊びの環境の工夫が、もう少し出来るとよかったと思う。（2年目：保育教諭）
- どの月齢の子どもも、体を十分に使った遊びや環境を来年度は更に工夫していきたい。（2年目：保育教諭）
- 2号認定児は、異年齢の子どもたちが集まり、日頃の遊びや活動では伸び伸びと活動することが出来、年長児が小さい子どもたちのお手本となりながらかわりと深めていくことが出来たと思っている。昼間、1号認定児と共に過ごしているため、各クラスの担任との情報共有が行き違ったりしてしまうことがあった。（1年目：保育教諭）
- 午後からの2号認定児ならではの活動に、もう少し厚みを持たせることができると、更によかったと感じている。今後は、積極的に子どもたちの意見を取り入れ、上手にグループ分けしながらの活動にもチャレンジしたい。（1年目：保育教諭）

## 【今後取り組みたい課題】

- 廃材遊びや様々な素材を活用した遊びの環境作りを努めたい。中堅という立場として、自分のクラス以外にも目を向けたり後輩の事も気にかけて、お互いに声を出しやすいような環境と雰囲気や言葉がけを意識したい。（7年目：保育教諭）
- 好きな遊びの展開として、季節や行事にかかわらず、子どもたちの関心のある物に目を向けたい。（7年目：保育教諭）
- 一人ひとりの個性を理解し、それぞれが集団で行動できる楽しさを感じられるような保育をすすめていきたい。また、視覚的な支援の部分で「このようにすると、どうなるか？」と思っているものがあつたが、実際には実践できなかった。積極的に実践していくようにすすめていきたい。（6年目：保育教諭）
- 同学年での交流が運動会に向けての活動でしか出来なかったため、お遊戯室や戸外を利用しながら、クラス対抗のゲームと一緒に取り組める活動を話し合いながらすすめていけるようにしたい。（3年目：保育教諭）
- 子どもたち一人ひとりの発達段階や個性が違う中、その子に合わせた援助を行いながら全体を視野に入れ保育をすすめていくことが課題点である。また、場面ごとに合わせ、臨機応変な対応を心がけながら他の先生方に頼るだけでなく、自分自身からもきちんと考えや疑問、不安に思っている事を発信していくことも今後の課題である。今年度の反省点を振り返りながら、来年度に向けて活かしていけるようにしていきたいと思う。（2年目：保育教諭）
- 遊びの中でも子どもたちの豊かな発想力を膨らませる事が出来るような環境作りをすすめたい。（2年目：保育教諭）
- 活動の合間の言葉がけなど、子どもの気持ちの切り替えを促すには少し援助が足りなかった部分があつた。活動の区切りをきちんとつけ、子どもたちが次の活動へ向けて切り替えていけるような促しを課題としたい。（2年目：保育教諭）
- 乳幼児の食事の面で勉強し（離乳食→幼児食の移行）安全にスムーズに行っていきたい。（3年目：保育教諭）
- クラスの事だけでなく、こども園・保育部全体の一日の流れを把握して、どのクラスに入っても子どもたちが安心でき、生活リズムを大切に過ごせるようにすすめたい。早番・遅番等しっかりと連携をはかりたい。（4年目：保育教諭）

## 【学校関係者からの評価】

- 前年度にもアンケートに答えさせていただきました。今年度すぐに改善されていたことが、とてもよかったです。いつ訪問しても園内がとても綺麗です。職員の皆様も明るく迎えてくださるので、素敵だなと感じています。行事等に関してですが、今後もう少し（特に年長児）園外保育があると楽しいのではないかと思います。笑顔いっぱいの教職員の皆様にはとても感謝しております。ありがとうございます。
- 担任の先生だけではなく、園長先生をはじめ、色々な先生方が子どもたちの名前を読んで声をかけてくださる姿などから、いつもクラスだけでなく園全体で子どもたちを見てくださっている様子が伝わり、保護者としての安心感につながっています。自己評価の「教職員全体でひとつのチームであることを意識している」の部分の評価の高さも、その表れだと感じる事ができました。
- まだこの1年コロナ禍ということもあり、活動が制限された部分も多かったと思いますが、今後は状況に合わせ、自分の子どものクラスだけでなく、園全体の活動の雰囲気や様子がわかる機会が増えればよいと感じています。
- 自己評価の中に「自分の説明が上手くできず、重ねて説明することがあった…」と記載がありましたが、上手にできなくとも、重ねて何度も説明してくださることは、保護者からすると大変ありがたい事です。あまり説明をせずに、うやむやにされる方が親としては不安なことなので、一生懸命説明してくださる方が安心できます。1年間、大変楽しく活動することが出来ました。今後もしよろしく願いいたします。
- こども園なしでは、私も仕事に行くことができませんし、子どもの成長もできません…本当にいつも感謝の気持ちでいっぱいです。ここ数年「新型コロナウイルス感染症」の影響で行事も中止になったり、内容を変えて行ったり、とても大変だったと思います。5月からは扱いが「第5類」へ移行となるので、少しずつコロナ前の日常や、園生活が送れるようになればいいなと個人的に思っております。保護者で出来る事がありましたら、出来る限りご協力させていただきたいと思っています。今後もしよろしく願いいたします。